



## トランスコーダの設定

Media Resource Manager (MRM; メディア リソース マネージャ) は、Cisco CallManager クラスタ内のトランスコーダのリソース登録とリソース予約を行います。Cisco CallManager は、Media Termination Point (MTP; メディア ターミネーション ポイント) とトランスコーダの両方の登録、および 1 つのコール内で MTP とトランスコーダの並行機能を同時にサポートしています。

2 つのデバイスが異なるコーデックを使用しており、普通には情報の交換ができない場合、Cisco CallManager は、エンドポイント デバイスのためにトランスコーダを起動します。トランスコーダは、コールに挿入されると、2 つの異なるコーデック間で情報交換が可能になるように、そのコーデック間でデータ ストリームを変換します。

トランスコーダ制御プロセスは、データベース内で定義されているトランスコーダ デバイスごとに作成されます。各トランスコーダは、初期化される時に MRM に登録されます。MRM はトランスコーダ リソースのトラッキングを行い、リソースが使用可能かどうかをクラスタ全体に通知します。

トランスコーダを設定するには、次のトピックを参照してください。

- [トランスコーダの特定 \(P.59-2\)](#)
- [トランスコーダの設定 \(P.59-4\)](#)
- [トランスコーダのリセット \(P.59-5\)](#)
- [トランスコーダの削除 \(P.59-6\)](#)
- [トランスコーダの設定値 \(P.59-7\)](#)

## トランスコーダの特定

ネットワーク内にはいくつかのトランスコーダが存在することがあるので、Cisco CallManager では、固有の基準を指定して、特定のトランスコーダを見つけることができます。トランスコーダを見つける手順は、次のとおりです。



**(注)** Cisco CallManager Administration では、ブラウザセッションでの作業中は、トランスコーダの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、トランスコーダの検索設定は保持されます。

### 手順

**ステップ 1** **Media Resources > Transcoder** の順に選択します。

Find and List Transcoders ウィンドウが表示されます。2つのドロップダウンリストボックスを使用して、トランスコーダを検索します。

**ステップ 2** 最初の Find Transcoders where ドロップダウンリストボックスから、次の基準のいずれかを選択します。

- Name
- Description
- Device Pool



**(注)** このドロップダウンリストボックスで選択する基準によって、検索時に生成されるトランスコーダリストのソート方法が決まります。たとえば、Device Pool を選択すると、Device Pool 列が結果リストの左側の列に表示されます。

2番目の Find Transcoders where ドロップダウンリストボックスから、次の基準のいずれかを選択します。

- begins with (前方一致)
- contains (中間一致)
- ends with (後方一致)
- is exactly (完全一致)
- is empty (空白)
- is not empty (非空白)

**ステップ 3** 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、**Find** をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



**ヒント** データベースに登録されているトランスコーダをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに **Find** をクリックします。

検出されたトランスコーダのリストが、次の項目別に表示されます。

- Transcoder icon
- Transcoder name
- Description
- Device Pool
- Status (状況)
- IP Address



(注) 該当するトランスコーダの横にあるチェックボックスをオンにして **Delete Selected** をクリックすると、Find and List Transcoders ウィンドウから複数のトランスコーダを削除できます。ウィンドウ内のトランスコーダをすべて削除するには、**Select All** をクリックし、**Delete Selected** をクリックします。

**ステップ 4** レコードのリストから、検索条件と一致する Transcoder icon、Transcoder name、Description、または関連する Device Pool をクリックします。

選択したトランスコーダがウィンドウに表示されます。

#### 追加情報

P.59-8 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## トランスコーダの設定

トランスコーダを設定する手順は、次のとおりです。

### 手順

---

**ステップ 1** **Media Resources > Transcoder** の順に選択します。

Find and List Transcoders ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 次の作業のいずれかを実行します。

- 既存のトランスコーダをコピーするには、該当するトランスコーダを見つけます (P.59-2 の「[トランスコーダの特定](#)」を参照)。次に、コピーするトランスコーダの横にある **Copy** ボタンをクリックし、**ステップ 3** に進みます。
- 新しいトランスコーダを追加するには、**Add New** ボタンをクリックし、**ステップ 3** に進みます。
- 既存のトランスコーダを更新するには、該当するトランスコーダを見つけます (P.59-2 の「[トランスコーダの特定](#)」を参照)。次に、**ステップ 3** に進みます。

**ステップ 3** 適切な設定値を入力します (表 59-1 を参照)。

**ステップ 4** **Save** をクリックします。

ウィンドウがリフレッシュされ、設定したトランスコーダに対して固有の情報が状況を含めて表示されます。

---

### 追加情報

P.59-8 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## トランスコーダのリセット

トランスコーダをリセットする手順は、次のとおりです。

### 手順

---

**ステップ 1** **Media Resources > Transcoder** の順に選択します。

**ステップ 2** Transcoders リストから、リセットするトランスコーダを選択します。

ウィンドウがリフレッシュされ、選択したトランスコーダが表示されます。

**ステップ 3** **Reset** をクリックします。

Reset ダイアログボックスが表示されます。

**ステップ 4** **Reset** を再度クリックします。

---

### 追加情報

[P.59-8 の「関連項目」](#) を参照してください。

## トランスコードの削除

トランスコードを削除する手順は、次のとおりです。

### 始める前に

メディア リソース グループに割り当てられているトランスコードは、削除できません。トランスコードを使用しているメディア リソース グループを検索するには、Transcoder Configuration ウィンドウの Related Links ドロップダウン リスト ボックスから **Dependency Records** を選択し、**Go** をクリックします。Dependency Records がシステムで使用可能になっていない場合、Dependency Records Summary ウィンドウにメッセージが表示されます。Dependency Records の詳細については、P.A-4 の「[Dependency Records へのアクセス](#)」を参照してください。使用されているトランスコードを削除しようとすると、Cisco CallManager はエラー メッセージを表示します。現在使用されているトランスコードを削除する前に、割り当てられているメディア リソース グループからトランスコードを削除する必要があります。

### 手順

---

**ステップ 1** P.59-2 の「[トランスコードの特定](#)」の手順を使用して、トランスコードを見つけます。

**ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除するトランスコードを選択します。

ウィンドウがリフレッシュされ、選択したトランスコードが表示されます。

**ステップ 3** **Delete** をクリックします。

このトランスコードを完全に削除しようとしていること、およびこの操作は取り消せないことを確認するメッセージが表示されます。

**ステップ 4** 続行するには、**OK** をクリックします。削除操作を取り消すには、**Cancel** をクリックします。

ウィンドウがリフレッシュされ、削除したトランスコードが、トランスコード リストに表示されなくなります。

---

### 追加情報

P.59-8 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## トランスコーダの設定値

表 59-1 では、トランスコーダの設定値について説明します。関連する手順については、P.59-8 の「関連項目」を参照してください。

表 59-1 トランスコーダの設定値

フィールド	説明
Transcoder Type	適切なトランスコーダタイプを選択します。 <b>Cisco Media Termination Point Hardware</b> 、 <b>Cisco IOS Media Termination Point</b> 、 <b>Cisco IOS Enhanced Media Termination Point</b> 、または <b>Cisco Media Termination Point (WS-SVC-CMM)</b> のいずれかを選択してください。  これらのトランスコーダのタイプの詳細については、『 <i>Cisco CallManager システムガイド</i> 』の「トランスコーダ」を参照してください。
Device Name	このフィールドは、Cisco IOS Media Termination Point または Cisco IOS Enhanced Media Termination Point をトランスコーダのタイプとして選択した場合に表示されます。ゲートウェイのコマンドライン インターフェイス (CLI) で入力したトランスコーディングの同じ名前を入力します。
Transcoder Name	Cisco Media Termination Point (WS-SVC-CMM) トランスコーダの場合、この値は指定された MAC アドレスに基づいて入力されます。
Description	説明 (最大 50 文字) を入力するか、ブランクのままにします。ブランクのままにすると、指定した MAC アドレスまたはデバイス名から自動的に生成されます。
MAC Address	Cisco Media Termination Point Hardware または Cisco Media Termination Point (WS-SVC-CMM) の場合は、MAC アドレス (12 文字) を入力します。
Subunit	Cisco Media Termination Point (WS-SVC-CMM) トランスコーダの場合は、ドロップダウン リスト ボックスからサブユニットを選択します。
Device Pool	デバイス プールを選択します。選択したデバイス プールの詳細を表示するには、 <b>View Details</b> をクリックします。
Special Load Information	<b>Special Load Information</b> フィールドに特別のロード情報を入力するか、ブランクのままにしてデフォルトを使用します。文字、数字、ダッシュ、ドット (ピリオド)、および下線を指定できます。
Maximum Capacity	Cisco Media Termination Point (WS-SVC-CMM) トランスコーダの場合は、ドロップダウン リスト ボックスから最大容量を選択します。
<b>プロダクト固有の設定値</b>	
Model-specific configuration (デバイス メーカーによって指定される、モデル固有の設定フィールド)	<b>Product-Specific Configuration</b> の下にあるモデル固有のフィールドは、デバイス メーカーによって指定されます。これらのフィールドは動的に設定されるため、予告なく変更される場合があります。  フィールドの説明、およびプロダクト固有の設定項目のヘルプを表示するには、 <b>Product Specific Configuration</b> 見出しの下にある「？」情報アイコンをクリックします。ポップアップ ダイアログボックスにヘルプが表示されます。  詳細な情報が必要な場合は、設定する個々のデバイスの資料を参照するか、製造メーカーにお問い合わせください。

## 関連項目

- [トランスコードの特定 \(P.59-2\)](#)
- [トランスコードの設定 \(P.59-4\)](#)
- [トランスコードのリセット \(P.59-5\)](#)
- [トランスコードの削除 \(P.59-6\)](#)
- [トランスコードの設定値 \(P.59-7\)](#)
- [Conference Bridge の設定 \(P.54-1\)](#)
- [メディア ターミネーション ポイントの設定 \(P.55-1\)](#)
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「トランスコード」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「Cisco CallManager Administration におけるトランスコードのタイプ」